

2024年8月15日

永光建設株式会社の「SDGs宣言」策定を支援

～地元企業のサステナビリティ経営をサポート～

武蔵野銀行（頭取 長堀 和正）は、永光建設株式会社（行田市、代表取締役 河合 キエ子）の「SDGs宣言」策定を支援いたしましたので、お知らせいたします。

当行では、2021年10月より、地元企業の皆さまのサステナビリティ経営をサポートする伴走型サービスとして「むさしのSDGsコンサルティング」の取扱いを行っており、本件はこれに基づく「SDGs宣言」策定となります。

当行は今後も持続可能な地域経済および社会の実現に向け、お客さまのサステナビリティ経営の取組み支援などに注力してまいります。

《SDGs宣言策定企業の概要》

項目	内 容
企 業 名	永光建設 株式会社
代 表 者	代表取締役 河合 キエ子
所 在 地	行田市大字犬塚1360
業 種 および 事 業 内 容	とび・土木工事業、建築工事業、土木工事業、舗装工事業、水道施設工事業、農業
設 立	1984年7月10日
宣 言 内 容	・郷土への感謝を忘れずに地域の農業を持続可能な形へ変えていく ・安心して暮らせる持続可能なまちづくりにも貢献していく ・従業員が安心して働くことができ、スキルアップできる職場 ・環境にやさしい建設会社を目指す （詳細につきましては別紙を参照ください）

以 上

報道機関からのお問い合わせ先
法人コンサルティング部 コンサルティング営業室 細川 朝之
TEL (048) 641 - 6111 (代)





2024年7月19日

永光建設株式会社 SDGs宣言

当社は国連が提唱する「持続可能な開発目標(SDGs)」に賛同し、
SDGsの実現に向けた取り組みを行っていくことを宣言します。

代表取締役 河合 キエ子

SDGsの達成に向けた取り組み

郷土への感謝を忘れずに地域の農業を持続可能な形へ変えていく

- 当社は設立以来40年にわたり、行田市を拠点として主に埼玉県内を施工区域として、建設事業を行っております。
- 地域の農業従事者の高齢化や後継者不足によって増加傾向にある遊休農地を、法人である当社が営農用地として借り受け、大規模営農を実施することにより、地域の課題解決、そして豊かな県北地域の自然環境の保全に努めます。
- なお、大規模な営農を実施するにあたり、機械化やICT技術の活用（大型コンバイン、ドローン、衛星画像サービスの利用、GPS自動運転トラクター、他）により、スマートな農業を実現していきます。
- また、地域の子どもたちへの農業体験教室の開催や学生向けの視察研修やインターンシップを実施することによっても、地域の農業を持続可能な形へ育成していきます。

【指標】

当社の『営農面積』 2024年 11,000㎡ ⇒ 2030年 100,000㎡ (+909%)
スマート農業手法の取入れ数 2024年 0件 ⇒ 2030年 4件 (+4件)
地元高校生のインターンシップ受入れ数 2024年 1名 ⇒ 2030年 累計 5名



安心して暮らせる持続可能なまちづくりにも貢献していく

- 建設事業を通じて自然災害（特に水害）から地域の人々の生活を守っていくとともに、万が一のときは行田市との災害協定にもとづき、人々の命を守る活動を行っていきます。
- これからも、環境に配慮した施工と環境負担軽減の工事に努めていきます。
- また、地域の行事やイベントへの積極的な参加や協賛も続けていきます。



従業員が安心して働くことができ、スキルアップできる職場

- 従業員の健康が第一であることから、従業員の健康管理を応援していくほか、作業現場での安全対策も徹底していきます。
- 業務に必要な資格取得者を増やしていくため、今後も資格取得の支援（講習費、実費、他）を継続していきます。また、ベテランが若手や協力業者に技術指導を行うことで、当社の施工技術やスキルを承継していきます。
- 今後も、地元高校生のインターンシップを受け入れていく他、地元人材を積極採用し、技術者として育成していくことで地域にも貢献していきます。



環境にやさしい建設会社を目指す

- 事業から発生する廃棄物については可能な限り3R（リデュース、リユース、リサイクル）を行い、廃棄物の発生量を減らしていきます。
- 社有車（乗用車、トラック）の環境配慮型車両への入れ替えを進め、CO2排出量を削減していきます。

【指標】

環境配慮型車両の比率 2023年 0% ⇒ 2030年 20% (+20%)

